

研究課題名	対象となる方	研究目的	研究期間	研究に用いる情報	実施責任者
糖尿病教育入院患者のバリエーションの分析	2022年5月から2023年8月までに当院入院し、糖尿病教育入院を行った糖尿病患者。	繰り返し教育入院を必要とする症例がある。また、医学の進歩に伴い、入院患者の年齢層は上がっており、高齢者でのパス逸脱例も増加している。これらのことから、本研究ではバリエーションの抽出・分析を行い、当院におけるバリエーションの原因を追究することで高齢社会に合わせたパスの適切化を行う。	2025年7月 研究承認後から2027年3月31日	1)患者基本情報:年齢、性別、既往歴、入退院日 2)血液・尿検査:HbA1C、空腹時血糖、BUN、Cr、尿中アルブミン 3)理学所見:身長、体重、血圧 4)リハビリテーションの有無、認知機能検査の有無と検査結果	大村 健人
がん診療均てん化のための臨床情報データベース構築と活用に関する研究	院内がん登録2023年症例(2023年1月1日～2023年12月31日)	院内がん登録とDPCデータの一元管理を試み、がん医療の実態を把握するデータベースを構築と活用法の検討を行う。(採録負担の少ない方法による診療実態の把握、標準診療実施率の算定、構築したデータベースを利用し、がん対策、がん診療向上のための有用解析など)	2013年7月29日～2027年3月31日	① 2023年院内がん登録全国集計への提出したデータ ② DPC調査で提出している形の 2022年10月～2025年3月分の外来・入院のEF統合ファイル、および様式1ファイル	実施責任者:田尾 友哉 研究責任者:国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部鈴木達也
「中間期肝細胞癌(BCLC-B)のup-to-7基準外症例におけるアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法とTACEの実臨床における治療効果変動性の比較検討」	以下の条件を満たす患者さんが対象となります: ・中間期肝細胞癌(BCLC-B)と診断された方 ・up-to-7基準外(腫瘍個数と最大腫瘍径の和が7を超える)の方 ・初回治療としてTACEまたはAtez/Bevを受けた方 ・2010年1月1日～2025年12月31日の期間に治療を受けた方	中間期肝細胞癌のup-to-7基準外症例において、アテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法(Atez/Bev)と肝動脈化学塞栓術(TACE)の治療効果を比較し、全生存期間や治療効果の変動性を評価することを目的としています。	倫理委員会承認後～2026年12月31日	以下のカルテ情報を利用します ・患者背景情報(年齢、性別、基礎疾患など) ・腫瘍の状態(個数、大きさなど) ・検査値(AFP、DCP、肝機能など) ・治療内容と効果 ・経過観察の結果	研究責任者:狩山 和也
慢性硬膜下血腫の歩行予後予測について	2020年～2024年の5年間に当院で片側慢性硬膜下血腫の手術歴のある方	慢性硬膜下血腫術後の歩行自立の可否に影響する因子について検討すること また予後予測モデルの作成とその妥当性についても検討すること	倫理委員会承認後～3年間	①基本情報(個人特定不可) ②臨床評価(意識レベル・運動麻痺の程度・Clinical Frailty Scale・認知症の有無・Charlson Comorbidity Index・Controlling Nutritional Status・発症前及び退院時mRS・運動機能) ③脳画像を用いた評価(血腫量・ミッドラインシフトの程度)	リハビリテーション科 理学療法士 太田成紀